

特集Ⅰ 「日米関係のコンテクスト」

はじめに——なぜ日米関係のコンテクストを問題にするか

小 寺 彰

皆さんご承知のように、今週安倍内閣が発足し昨日所信表明演説が行われましたが、外交の箇所の冒頭に、日米関係が取り上げられています。

本日は、この日米関係を議論する時に前提にされる「コンテクスト（文脈）」を意識的に取り上げ、それがどういうものか、また可能であればどういうものが適切かを皆さんと一緒に考えたいと思います。コンテクストという場合、第一に分野が考えられます。安全保障、経済、文化というものです。ある分野の問題について日米関係を議論する際に、他の分野がどのように関係し、また相互にはどのような関係になるのか。またどのような関係づけが望ましいか。たとえば、日米の経済関係を議論する際に、安全保障問題への目配りがされているか、また必要かどうか。

さらにもう一つ重要なものに「地理的なコンテクスト」があります。日米関係といても、単に日本とアメリカという二国間の関係に尽きるものではありません。たとえば中国、アジア、太平洋諸国との関係、さらにはグローバルな関係が、日米関係を議論する際にどのように意識されているのか、また意識すべきか。中国を意識しないで日米同盟の議論はできないでしょう。またアジア諸国との経済関係を踏まえずに、日米の経済関係だけを考えることもできないでしょう。

従来、日米関係を実際に議論する場合には、様々なコンテクストを踏まえて議論されてきたのですが、それが常に自覚的であったとはいえないように思います。

本日は、安全保障、経済、政治の各分野について有数の専門家の方にご参集をいただき、上記の観点からご専門分野を中心に日米関係についてご報告をいただきたいと思います。ご報告の後、コメンテーターからコメントを得て、その後にご出席の皆様との質疑に移っていきたいと思います。なお、第三者からの観点も重要と考え、コメンテーターの李元徳先生にはわざわざ韓国からお越し頂きました。